

徳島県の地震

令和6(2024)年3月

目次

◎徳島県の地震活動

震央分布図・断面図	1
概況	1
徳島県で震度1以上を観測した地震の表	1
震度分布図	1

◎地震メモ

津波発生と伝播のしくみ	2~3
-------------	-------	-----

* 「徳島県の地震」は月1回発行し、徳島県及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行っています。また、「地震メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

* 本資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

* 全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyaeq.html>

* 大阪管区気象台管内（近畿、中国、四国地方）の地震活動は、大阪管区気象台ホームページに掲載の「管内地震活動図」、「週間地震概況」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

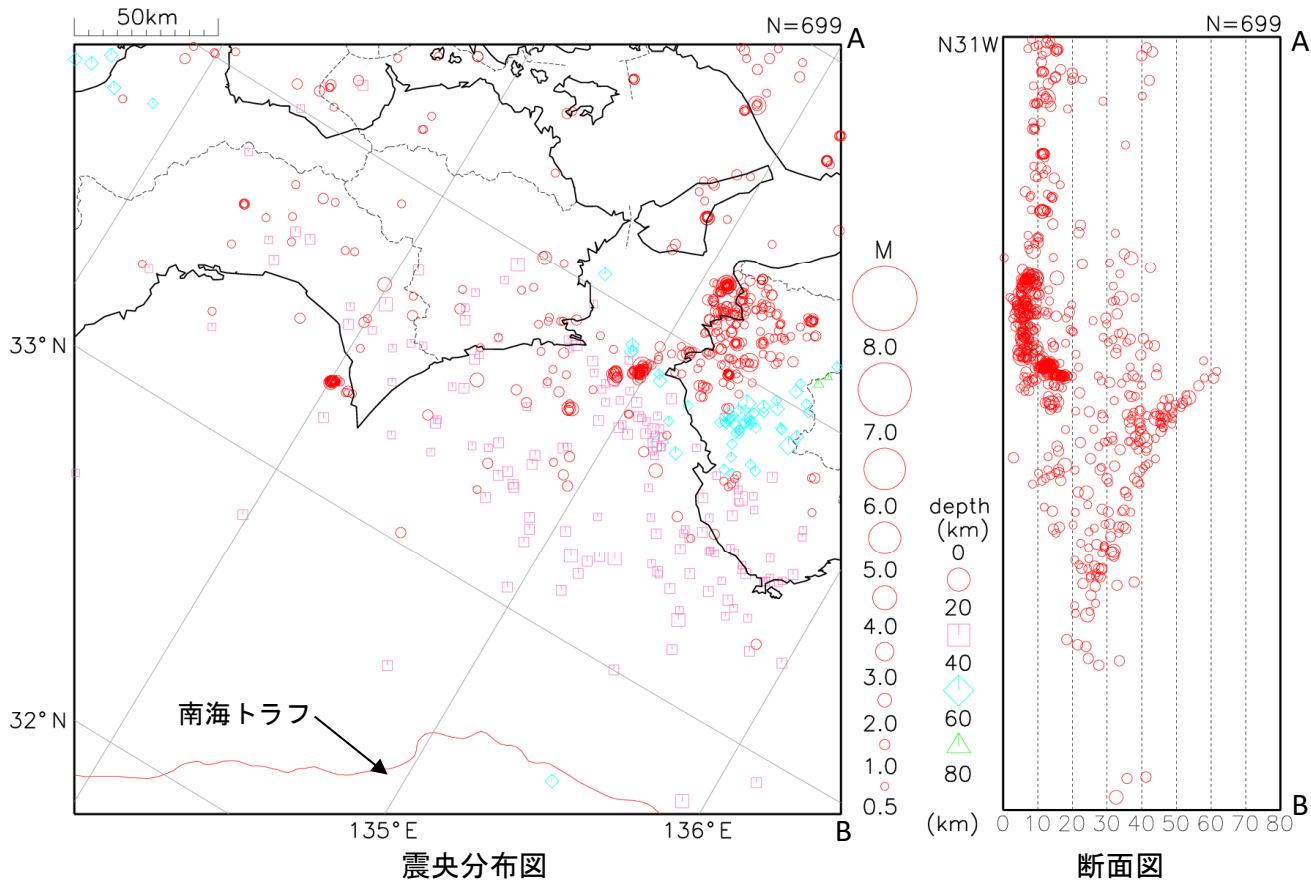
徳島地方気象台

(<https://www.data.jma.go.jp/tokushima/>)

徳島県の地震活動

震央分布図・断面図 2024年3月1日～2024年3月31日

2024 03 01 00:00 -- 2024 03 31 24:00



- ・ M0.5以上の地震を表示。
- ・ 図に表示する震源は、凡例のとおりシンボルの大きさと色でマグニチュード (M) の大きさを、シンボルの形状と色で震源の深さ (depth) (震央分布図のみ) を区分。図に表示している地震の回数 (N) は震央分布図と断面図の右上に表示。
- ・ 図中のコメントは、徳島県で震度1以上を観測した地震の発生日時・マグニチュード (M)、最大震度 (徳島県内の最大震度とは限りません)。

概況

2024年3月に徳島県で震度1以上を観測した地震は0回でした (前月は2回)。

徳島県で震度1以上を観測した地震の表

2024年3月1日～2024年3月31日

発震日 (年月日時分)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度 (徳島県内のみ掲載)					
震度1以上を観測した地震なし					

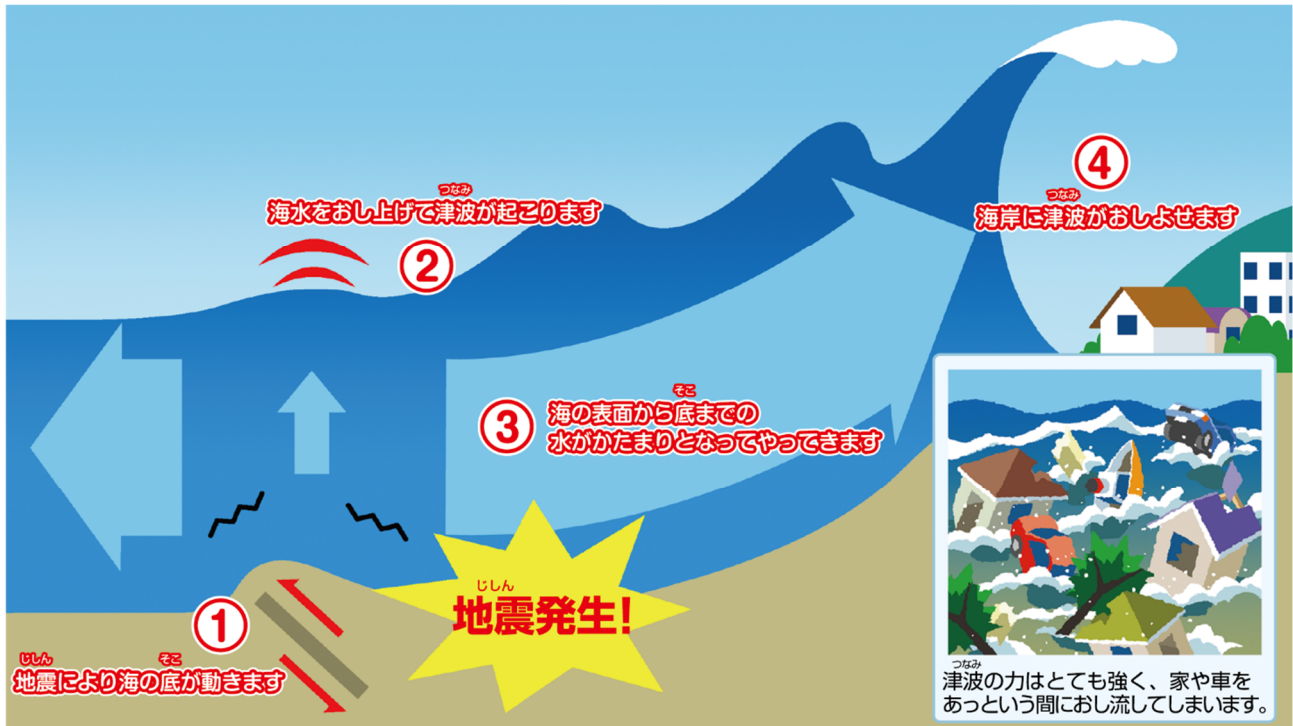
震度分布図 (×印は震央)

震度1以上を観測した地震なし

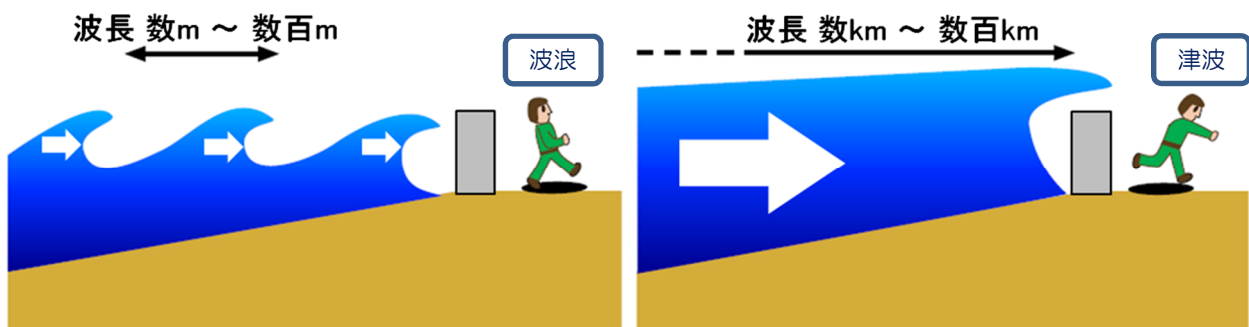
【地震メモ】津波発生と伝播のしくみ

地震が起きると、震源付近では地面が持ち上げられたり、押し下げられたりします。地震が海域で発生し、震源が海底の浅いところにあると、海底面の上下の変化は、海底から海面までの海水全体を動かし、海面も上下に変化します。このようにもたらされた海水の変化が周りに波として広がっていく現象のことを津波といいます。また、まれに海底地滑りや火山噴火に伴い、津波が発生することもあります。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、また津波が発生した場所と海岸との位置関係により、津波の第一波が押し波か引き波かが決まります。

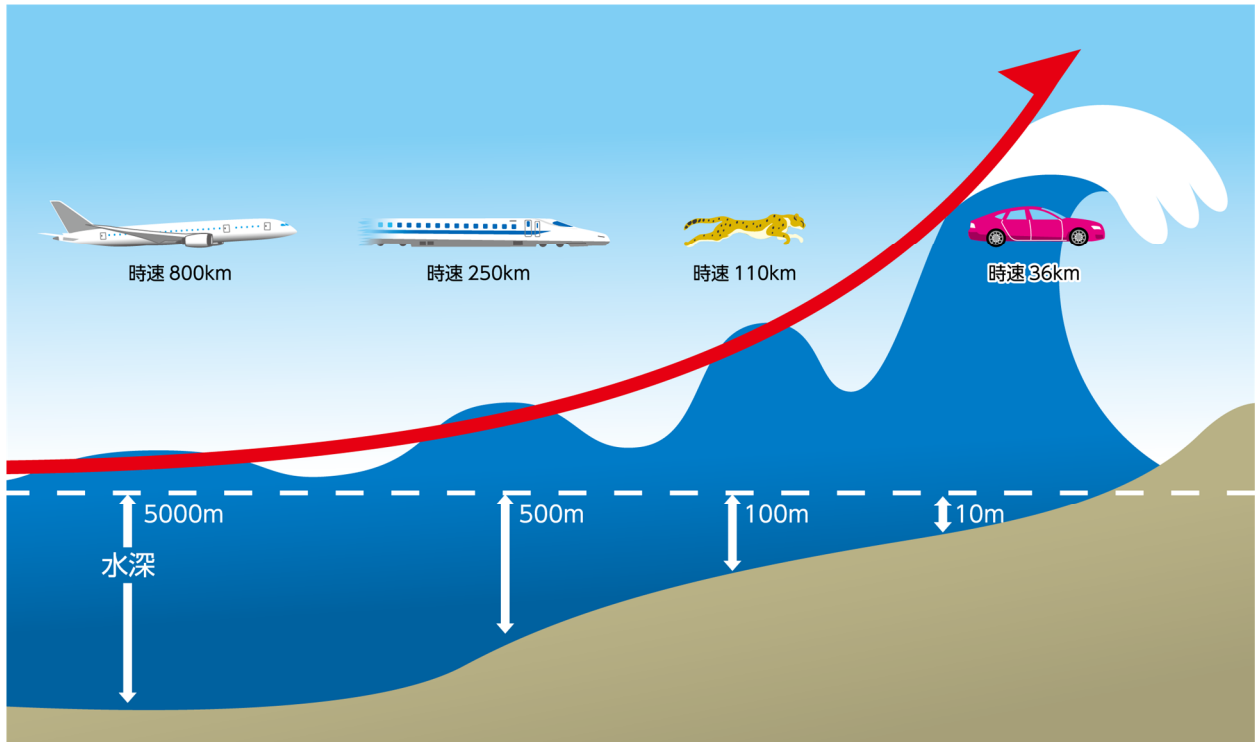


通常の波は波浪といい、海上を吹く風により海面付近の海水が動く現象で、波長（波の山から山または谷から谷までの長さ）は数m～数百m程度です。一方津波は、海底から海面までの海水全体が短時間に変動し、それが周囲に波として広がって行く現象で、波長は数kmから数百kmと非常に長いものです。波浪は海面付近の海水のみが動いているためエネルギーが小さく海岸に近づくとき砕け散りますが、津波は海底から海面までの海水がすべて動いているためエネルギーが大きいため、沿岸でも勢いが衰えずに連続して押し寄せ、沿岸での津波の高さ以上の標高まで駆け上がります。また、波長の長い津波ほど、沿岸までそのエネルギーは衰えず遠くまで伝わりやすいという性質があります。そのため、巨大地震に伴う波長の長い津波によって、震源から遠く離れた場所で津波に襲われることがあり、このような津波は、遠地津波と呼ばれています。徳島県でも大きな被害を出した1960年のチリ地震が代表的な例です。



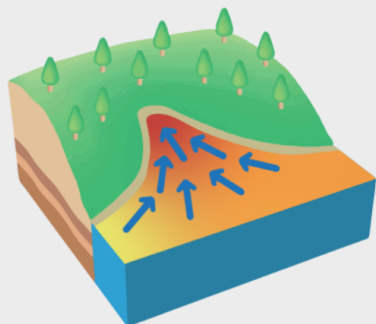
津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。

水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたり、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、直ちに避難しましょう

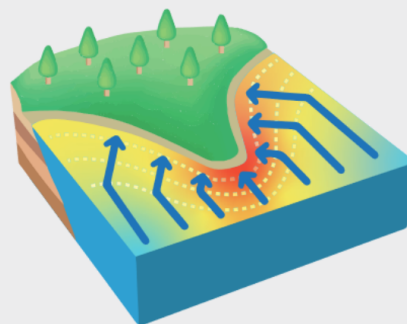


津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。さらに、津波が陸地を駆け上がる（遡上する）こともあります。岬の先端やV字型の湾の奥といった特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せ、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。このため、最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。そのため第一波の波が小さくても津波警報が解除されるまで海岸に近づかないでください。

地形による津波の増幅の例



V字型の湾では湾の奥にエネルギーが集中し、波高が高くなります。



岬の先端では、津波が海岸線に対して平行になろうとしてエネルギーが集中し、波高が高くなります。